

・危なくて隠している「はさみやカッターを使った工作」など。

本当はじっくりつきあって練習させたいけど、母ひとりではしんどいことを数組の親子が集まってチャレンジしています。月2回の土曜日には、そんな親子が集まってパーティーを開催。手作りメニューでランチをしながら母さん同士、子ども同士の交流も活発になり、ますますにぎやかになってきました。



==ある日の“らっこ”==

土曜パーティでは、参加者さんのリクエストにお応えし、うどんとおにぎりを作りました。海苔や鮭フレーク、昆布など好きな具材を入れながら、おにぎり型を使って個性的なおにぎりの出来上がり！

うどん作りは“ぶらむ版セルフうどん屋さん方式”街のうどん屋さんでも、最近ではセルフ方式のところが増えてきているので、その練習をしてみよう～との発想！みんな意外と面白かったようで、流れを理解して上手です。



マラソンクラブ 開催：37回・参加者：延べ293名

仲間と一緒に“マラソン”に慣れ親しむことを目的に活動しています。走れなくてもOK！ウォーキングやゆっくりペースのジョギングでも、充分健康な体づくりになります。たくさんボランティアさんに盛り上げてもらいながら、準備体操から始まってみんなで楽しく走っています。積み重ねて練習をする中で個々の目標も見えてきたり、やる気もいっぱい！堺市の公式なマラソン大会に挑戦したりもしました。



==ある日のマラソンクラブ==

2月11日に堺市民マラソンに参加してきました～！ 場所は大泉緑地。1300人もランナーたちが、一斉に3キロを走るといふ大きな大会は、子どもたちにとっては、ちょっぴり大きすぎる挑戦でした。とっても緊張していましたが、初挑戦の子どもががんばって見事全員が完走しました！日頃の練習の成果がバッチリ現れ、達成感いっぱいので記念撮影～！

仮面ライダークラブ 開催：29回・参加者：延べ108名

さまざまな仮面ライダーグッズを展示したお部屋にライダー好きのメンバーが集まって、フィギアやソフビ人形で遊んだり、資料や本を熱心に調べたり、電動のバイクやゲーム機を操作して遊んだり、自由に楽しんでいます。懐かしの昭和ライダーから平成ライダーまで幅広い話題は、ライダーファン同士だからこそ分かり合える様子。毎回、いろんな情報交換をしながら盛り上がっています。

==ある日の仮面ライダークラブ==

常連さんが毎回ソフビ（人形です）を持ってきてくれます。「これは映画版のライダー〇〇に出ていたバージョンです」としっかり登場ライダーをコンプリートしたのを見せて説明してくれます。まずは、揃ったソフビの記念撮影?!をして、その後、友だちやスタッフにお披露目。そこから先は、映画のシーンを再現した戦いの始まり～！



特別企画 開催：28回・参加者：延べ324名

通常活動とは別に、季節に応じた取り組みを意識しながら、以下のイベントを企画しました。

春休み、夏休み中の長時間活動では、日頃の活動でできた友だちと一緒に宿題をしたり、昼食作りをしたり、友だち同士の関係が深まり合いました。

また、マラソン大会の開催や、バスツアー、野外クッキングなどの外出活動は、貴重な社会体験の機会となり、普段はなかなかできない経験ができました。

イベントを通してボランティアさんとの触れ合い、家族同士が触れ合うよい機会となりました。

★春休み・夏休み活動

長期休みのぷらむ。スケジュールは午前中は「宿題」、お昼ごはんはみんなで「クッキング」、午後はそれぞれ好きなことをして過ごします。みんなと一緒に宿題もがんばれます。

クッキングは、ぷらむで練習を重ね、お家でも作れるようになりました。



★鉄道スペシャル

繰り返し開催している“鉄スペ”は、子どもたちが主導となって取り組んでくれています。鉄ちゃん仲間同士で得意なことを分担しながら、「クイズコーナー」「レールの組立て」と、子どもたちが中心となって準備を進めることが定着しています。



●京都水族館 バスツアー

大型バスに乗ってに行く、親子参加のバスツアー。京都梅小路公園の中にある新しい水族館は、みんな初体験でした。

ここの“いるかライブ”の特色は、観客も一緒に参加するスタイルです。行きのバスの中で作ったストローの笛で、お客さんが吹く音に合わせて、イルカがパフォーマンスをするという画期的なもの！しっかりと参加できて、楽しめたようです。親子で過ごした貴重な一日となりました。



●防災体験&お楽しみ会

大学生のボランティアさん、お母さんたちのアイデアあふれる企画で、一日楽しく過ごしました。防災体験では、大学生のボランティアさんのパフォーマンスに子どもたちはノリノリ。お母さんたちが企画したゲームは、とってもワクワクの内容でした。お母さんのパワーと愛情がいっぱい伝わってきました。



●陶器山を走ろう！（マラソン大会）

堺東高校との共催で今年で2度目の企画となります。ボランティアの高校生がマンツーマンで伴走してくれ、子どもたちは意欲たっぷり走りまわりました。



空気のよい自然たっぷりの山を、気持ちの良い汗をかいて走ると、心も身体もリフレッシュ！きょうだい、家族も一緒にスポーツの秋を満喫しました。



●親子野外クッキング

「日頃から、ぷらむの活動で練習してきたお料理を、野外で体験してみたい！」という親子の声があり、企画しました。大自然の中で薪で火を起こし、お鍋でご飯を炊き、カレーライス作りにチャレンジ！はじめてのことに子どもたちは意欲満々！お母さんもお父さんも負けないくらいイキイキとしていました！



自主グループ“ゼブラ” 開催：8回・参加者：延べ64名

軽度知的、発達障がいのある小学生親子の自主グループです。仲良し親子が、月に一回程度集まって、目的を持った自主活動を、友だちと一緒に集団で取り組んでいます。



==ある日の“ゼブラ”==

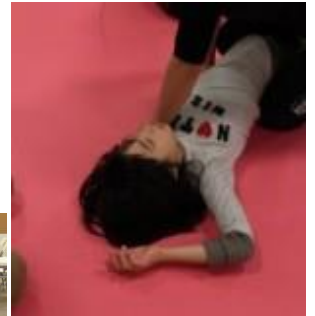
河内長野の『天野山フルーツランド』にみかん狩りに行きました。季節はすっかり秋なのに、この日は、半袖でもOKなくらいいいお天気でした。バス停から約10分の山道を歩きましたが、子どもたちは元気いっぱい！みんなが揃うと楽しくてしょうがない様子。親子共々大満足の外出活動となりました。

自主グループ“いるか” 開催：12回・参加者：延べ165名

重度知的障がいの小中学生の自主グループです。月に一回程度、ボランティアさんと一緒に動作法を取り入れながら、身体と心のリラックス方を学び合っています。

==ある日の“いるか”==

親子一緒にリラグゼーションする時間を大切に、「いるか」では、半年に一度 いつもより長い時間を使った「ロングいるか」を開催。じっくりと、そして楽しく動作法を学んでいます。長時間の見通しが持てるよう、ボランティアさんお手製のスケジュールを手がかりに取り組んでいきました。大人の援助に合わせながら身体を動かすことは、簡単なようで難しい～よく気持ちを集中させて、身体を通して相手とのやりとりをしています。いつもよりじっくりと時間をかけると、やりとりもだんだんと上手になりリラックスしていく様子がよくわかりました～♪



自主グループ“アート” 開催：5回・参加者：延べ18名

重度知的障がいの小学生数組で、アートに取り組んでいます。家ではできないようなダイナミックなことは、子どもの目がキラキラ！お母さんも自然と笑顔になります。

==ある日の“アート”==

ひっかきアート？にチャレンジしました。黒一色の紙を細い棒でひっかくと、下からカラフルな色が出現する！というものです。なんと、黒い部分を殆ど全部削って下のカラフルな部分の全貌が！隠れていた部分はこんなに色とりどりだったんですね。全部削ったところで、ボンドをたら～っとして、そこにスパンコールをふりかけると…春らしいお花畑のようになりました。



家ではスパンコールが飛び散るのが気になったり、ゆっくり子どもに付き合えない日も多いけれど、ぶらむではこんなこともできちゃうね！と話す母たちなのでした。

生活支援グッズの店 ぽっしゅ (記：山本明)



店舗を構えての運営3年目の今年度は、「広く支援グッズを知ってもらい・いつでも便利に購入できるシステム作り」を課題として、インターネットショップを4月1日より開始いたしました。

年度後半、10月あたりから、ネットによる受注が倍増し、全国津々浦々から閲覧していただけるようになりました。

ネットショップのコンセプトは、【店舗と同じような親しみやすさ】を第一にしました。結果、「実店舗がある、店長の顔が分かるから安心」という声や、ネット注文後に「実際に行って、お話ししたかった。」と来店されるケースもありました。

また、昨年度に引き続き、①店舗でのよろず相談を受ける体制の充実 ②支援グッズの整理 ③提供する情報の内容整理 ④ニーズに応じたイベント企画 ⑤店舗外のショーケースの活用を進めた結果、初回利用の方が顕著となりました。なかでも、軽度発達障害関係者が増えました。

年度途中、「来所される方の相談に、十分に応じることが出来る体制作り」が必要と判断、あらたに障害児母スタッフを増員しました。結果、軽度発達障害の支援についても、寄り添える・暮らしベースの具体的な支援を一緒に考えることができる場所と周知されるようになりました。

【H26年度の活動報告】

●ぽっしゅ 来店者数： 488人

販売件数：合計 2717件

●新規取扱い：順不同

- ・オリジナル商品「防災ワッペン」新規取引先による生産
- ・株式会社ゴムQ「Qシリーズ（ホルダー、スケール、シート、チェアマット、スプーン、フォーク）」
- ・中園企画「乾電池アダプターケース、押しボタン型スイッチ4色」
- ・ペルダール社「イヤーマフH540、高遮音イヤーマフ 赤黒ツートン」
- ・ピラミッドジャパン「PECSコミュニケーションブック 大、中、小」
- ・一般社団法人PORO「防災絵カード」
- ・株式会社長谷川刃物「カスタ、ライン、ネイルなど4点」（ユニバーサルデザインハサミ、カッター、爪切り）
- ・のぞみの園「強度行動障害基礎研修テキスト」
- ・スペース96「跳びはねる思考、発達障害の子のビジョントレーニングなど5点」
- ・クリエイツかもがわ「てんかん発作こうすればだいじょうぶ改訂版、生活をゆたかにする性教育など36点」

ぽっしゅでは、開所当初から、鉛筆などの握り方補助具である「Qリング」は取扱いしていましたが、販売数が少ない商品でした。それは、スタッフが商品の良さを分かっていないためではないかとの反省から、メーカー社長を招聘し、全商品の取扱い方や特徴について、講義を受けました。

結果わかったことは、「良さを実感できること」が一番大事ということでした。新たに取り扱いを開始した補助具「Qホルダー、Qチェアマット、Qスケール」なども、すべてお試しができるように店舗内にコーナーを設置し、ご来店時にすぐに試していただけるように致しました。結果、たくさんの方にご利用いただけるようになりました。

●情報提供：順不同

- ・インテリアタクト（おうちの構造化お手伝い）
- ・マルチメディア学習システム天神（学習ソフト）
- ・バシフィックサプライ（VOCA／入力補助装置／感覚統合器具）
- ・イワタデザイン（キーガード付きキーボード）・上海屋（キッズ用デカキーキーボード）
- ・兵庫県立福祉のまちづくり研究所（知的障害者 暮らしのアイディアブック）
- ・e=AT 利用促進協会（障害のある子どもたちのための携帯情報端末を利用した学習支援マニュアル）
- ・株式会社おめめどう（トータルセミナー等各種セミナー／各種資料・有料ネットサービス）など

●ぽっしゅ出張販売など店舗以外での販売



ご来店がむずかしい方々にもいろいろな支援グッズを「見て・触って・知って」もらうように、ご依頼いただいたところへ出張販売させていただきました。今年度の特徴は、「一般向けイベントへの出店」ということです。

広く一般市民の方が「これなに～？便利そう～！」と気楽にぽっしゅのブースをのぞいてくださいました。自然な障害理解啓発のあり方で、ICF の考え方を具現化したありようであり、ぽっしゅのミッションのひとつだと改めて思いました。

4月	・インターネットショップ開始 ・消費税が8%に
5月	・「進級進学応援！イヤーマフセール」・Qシリーズ新規取扱い開始
6月	・店舗陳列棚等の模様替え・Uシンボル集1が再入荷
7月	★家族最強計画！出張販売@大阪市北区市民ホール 7/6 ・「BOOKフェア 7/2～8/31」
9月	・店内改装 ・スタッフ増員
10月	・ビニールポケットカレンダー2015、カスタ、ネイル、ライン全色取扱い開始 ★すみよしまつり出張販売 10/25
11月	★ほほえみフェスタ出張販売@じばしん 11/3
12月	・ネットショップクレジット決済、代引き決済開始 ・カレンダークリスマスセール
1月	・カレンダーお年玉セール
2月	★NPO 法人クララ主催「発達障害児者 くらし市 2015」出張販売@平野区民ホール 2/15
3月	・次年度店舗改装計画

表内★印が、ぽっしゅ出張販売など

▼ぽっしゅネットショップ <http://ps-poche.shop-pro.jp/>



上↑「箸蔵くん」
他の補助箸から移行されるお子さんが多くありました。

下↓「カスタ」
ユニバーサルデザインのハサミ。持ち手に穴がないので、簡単に使える。机に置いて片手操作も可能。手先の不器用なお子さんが切る楽しさを味わえる一品



上↑「Qスケール」
簡単に線が引ける人気の定規。静岡県立こども病院OT鴨下先生監修のすぐれモノ！

左←「かむかむナイン」
かみ癖のあるお子さんの癒し系グッズ。

★「学校・先生とのつきあい方」に参加のお母さん

以前も同じセミナーに参加したことがあったのですが、その時はお母さんのグチ大会のようになっていて、気持ちはスッキリしましたが、具体的な方法まで考える余裕はありませんでした。

今回は先生の立場も考えながら、どのような方法が有効なのか？親もどのような気持ちでいるのが大切なのか、などいろいろ勉強になりました。

★「就学相談会～ちょっと先輩を迎えて」に参加のお母さん

すごく迷って悩んでいるところなので、いろいろお話を聞いてとても参考になりました。子どもに合ったところを見つけてあげるのも大切なんだと感じました。先輩ママのお話は本当にためになりました。

★「先輩母に聴く！気になる言葉の発達」に参加のお母さん

先輩お母さんの経験談などから、子どもと上手に接する方法や対応の仕方など、いろいろと教えていただけてとてもためになりました。

娘とストレスなく楽しく過ごせるように、実践したいと思います。子どもの気持ちを汲み取ることの大切さなどを学べたように思います。

★「サポートブック制作会」に参加のお母さん

サポートブックに記入する際の書き方など、具体的に教えていただけて良かったです。少人数だったので1対1で詳しく教えていただけて、文章の書き方など納得のいくまで考えながら、どんどん作っていくことができ助かりました。この機会に息子のことを改めて考えることができ良かったです。いろいろと相談にも乗っていただき、ありがとうございました。

★「進学・進路について（中学・高校）」に参加のお母さん

知らないこともたくさんあったので、勉強になりました。障がいは軽度でも普通にはいかなくて、なかなか相談するところもなく、話を聞いてもらって良かったです。他の皆さんも頑張っておられるのがわかり、もう少し頑張ろうと思いました。同じようなセミナーに参加したことは今までにもありましたが、これまでの中で一番参加して良かったと思いました。

★「成人期の暮らしを語ろう」に参加のお母さん

成人親のグループに「クローバー」と愛称が決まり、これからゆっくりと無理なく進めたらと願っています。次に行く道がまだまだできていない状態の年代の子どもを持っている親たちです。行政を動かすためにも、保護者の人数が増えてほしいと希望しています。

※この小セミをきっかけに、成人親のグループ「クローバー」が結成されました。参加ご希望の方は地域活動支援センターぱれっとまでお問い合わせください。



(2) しゃべり場

堺東高校の渡邊元嗣先生（なべさん）をボランティアで迎え、当事者向けプログラムとして活動しています。

「いつでも誰でも自由に」のスタイルで、当事者の方々の日常生活の小さな悩み相談から、趣味や余暇活動を共感し合う場として開催。開催日は、就労や訓練中の障がい者の方も利用しやすいよう「土曜日」とし、生きがい、仲間作りを目的に進めて来ました。

なべさんが、精神保健福祉士・学校心理士・特別支援教育士の立場から、さまざまな相談にも対応。一人ひとりの利用者が地域の中で「自立した日常生活」「社会生活」を営むことを支援する「なべ先生のしゃべり場」は、回数を重ねるごとに徐々に浸透し、ぱれっとが素敵な居場所として活用できる貴重なプログラムとなりました。



【H26年度の活動報告】

●実施回数 32回 (年間参加総数 295名)

＝活動の様子 プログより抜粋＝

しゃべり場にお越しのみなさんは、それぞれ新しい環境で頑張っておられます。進級・進学・職場の変化など。。しゃべり場が息抜きになるといってくださる方もいて、とてもうれしく思います♪

お友達のつながりがどんどん広がっていき、新しい参加者さんがこの日も1名来られました。なべさんがホワイトボードにみなさんの名前を書き出し「自己紹介」を取りまとめてくださいました。みなさん、とっても照れくさそうでしたが、自分の番が来るとしっかりと話ししてくれました。なんだか新鮮でした(*^_^*)

Hさんは、ミニギターで「ドラえもん」を演奏してくださいました。相変わらずとてもお上手です。

学校の話・職場の話・社会人バスケの話・カードの話など・・・ここで初めて知り合ってから1年以上たつ方もおられますので、共通の話題がどんどん増えていきます。人と人とのつながりって本当に素敵ですね☆

(3) iPad活用セミナー (4) できるパソコン教室

今年は、デジタル機器活用支援として「iPadとパソコン」を一体的に開催。内、特別開催バージョンが4回。

iPadが学校や家庭へ爆発的に普及し、それに比例して、障害のある人への支援に活用した事例報告を、新聞やネットニュースで良く見かけるようになりました。利用者からも「買ったけど、使えていない。」「どんなことに使えるの?」「子どもが使うに当たっての注意点は?」などiPadなどタブレットに関するニーズがあります。

また、「子どもの支援グッズ作成で使いたいけど、やり方がわからない。」「親の会のニュースの作成をパソコンでしてみたい。」など、パソコンは家にあるけどイマイチ使いこなせていない・・・というパソコン操作に関するニーズもあります。

そこで、「何をやりたいか」に主眼をおき、そのニーズにこたえる形で開催しました。

【H26年度の活動報告】

■実施回数：20回 (年間参加総数 34名)

＝メルマガより、活動の様子・参加者の感想＝

前回習得したパソコン操作をもとに、作業をすすめました。参加者それぞれに、「自分の参加するイベントのチラシ」「資格取得後の自分をイメージして、教室の生徒募集チラシ」を仕上げました。

出来上がったワードは、夢の形であり、自己実現です♪単にパソコンができればいいな～という枠を超えて、自分が主人公の暮らし実現!

さらに、もう一人の参加者は、iPadにお子さんのサポートブックを仕込みたい!という夢を実現するため、サポートブックのひな形ワードに入力をしていきました。入力しながら、子どもさんの情報整理が進むのでとてもいい機会になりました。



《参加者の感想》

- ・色々親身になって教えてくださり、とてもよかったです。iPadを使った支援方法があるという事と、アプリの種類もたくさんあるのにビックリしました。本人が自分の気持ちややりたいことを、これからどんどん広げていく手段のひとつとして活用できればと思いました。また、本人が自信をもって生活していけると良いなと思います。アナログの絵カードやマカトン、筆談も用いながら自閉症のしんどさや難しさに寄り添っていきたいと思います。
- ・今まで本気で手をつけていなかったサポートブックを、完成させたいと思い参加。スタートを切ることが出来ました。出来上がりもたのしみです。

(5) おもちゃ図書館 ぽっぽ

障がい児の母親たちがボランティアで活動している『おもちゃ図書館ぽっぽ』を、ぱれっとが常設運営をサポートするグループワークプログラム。たくさんのおもちゃが揃っている中で、障がい児とその兄弟が気がねなくのびのびと自由に遊べる場所の提供をしています。

対象は0才～10才程度の障がい児とその家族。好きなだけ遊んでおしゃべりして時を過ごせる空間です。

平成9年から活動を開始し、17年目を迎えました。目的は、「障がい児が主役になれること」。そしてその内容は、「おもちゃで遊ぶ」そんなシンプルな活動を地道に続けています。

- 開催回数：165回（年間参加者総数 1195人）
- おもちゃ貸出：年間貸出総数 132点 / 団体への貸出件数 2件
- その他の活動

機関紙よっトOYで！	編集会議・印刷	年10回	延べ 62名
クリーニング	おもちゃの清掃	年10回	延べ 56名
運営会議	運営について	年10回	延べ 62名
総会		年1回	9名
イエローシートキャンペーン	啓発活動	年6回	12名
合計			201名

（開館日・その他の活動合わせての延べ総数 1396名）

== 担当者より ==

平成26年度は、土曜日だけでなく平日もたくさんの方にご利用いただくことができました。夏祭り・クリスマス・・・と、季節ごとに手作りのイベントを開催し、活動内容も変化をもたせることで、さらに楽しんでいただけたかと思います。

平日、児童発達支援センターがお休みの時や、めだか教室のない日に、お友達同士、ぽっぽで集合して、終日、遊んでいる場面をよく見かけました。お母さんたちも、「ここなら、母同士、ゆっくり喋れるんです」と言われ、こちらもとても嬉しくなりました。

== ある日のぽっぽ ==

今日はあいにくの雨でしたが、ぽっぽの中はクリスマス♪ツリーは、子どもたちと協力して飾りました！

今日の巨匠はKくん。マグネットボードに、渾身の作品を作り上げていましたよ(◎o◎)その集中力に脱帽です。クリスマス仕様のプチ変装をみんなでしたり、ビンゴゲームで楽しんだり…

大人も子どももいっぱい楽しめました～(*^o^*)



(6) その他 特別開催したグループワークプログラム

軽度発達障がい児のためのワークショップ	(4月26日 13:00~16:30)	1回	17人
夏休みをたのしく過ごす工夫展	(7月2日~15日 10:30~16:30)	10回	15人
iPad&支援機器体験会	(7月19日 13:30~16:30)	1回	3人
夏休みこども防災教室	(8月9日 13:30~16:30)	1回	9人
iPad&支援機器体験会	(11月15日 13:30~16:30)	1回	12人
こども防災ワークショップ	(11月22日 13:30~16:30)	1回	6人
iPad活用セミナー拡大版	(11月28日 13:30~16:30)	1回	15人
iPad&支援機器体験会	(2月28日 13:30~16:30)	1回	13人
軽度発達障がい児のためのワークショップ	(3月26日 13:00~16:30)	1回	15人

・夏休みをたのしく過ごす工夫展 7/2~15

「同じ場所で長時間となると、何をすればいい?」「いつもと違う時間帯、子どもたちが混乱せず過ごすには、どうすればいい?」と、悩んでる家族・支援者向けに開催。さまざまな支援グッズや映像を用い、具体的に、わかりやすく展示し、また、会場での障害支援のよろず相談も承りました。



・こども防災ワークショップ 8/9

発達障害の子どもを対象に、「じしんがおきたらどうする?」「なぜそうするのか?」「ゆれがおさまったら、そのあとは?」など地震発生時の対処法や行動について、子供向けの防災ハンドブックやグッズを使いながら、ワークショップ形式で楽しく学びました。

発達障害のある子どもたちの防災教育や避難訓練は、その特性から「リアルな災害映像に強い影響を受けてしまう」「習った通り文字通りにしか行動できない」といった問題があることを押さえ、視覚的支援を用いた指導方法が必要であると改めて認識することができた貴重なイベントでした。

・iPad&支援機器体験会 11/15

基本のアプリや機能でできることを丁寧に紹介。

また、参加者の質問に対して答える形で、実際に使

ってみたアプリの紹介もありました。参加者それぞれの個別のニーズにお応えする形で、セミナー後の相談会にて、個別相談を行い、具体的支援について、(当然ですがiPad以外の支援グッズ活用も含めて)お話をする機会を持ちました。

・軽度発達障がい児のためのワークショップ 3/26

お友だちづきあいが難しい、集団生活が苦手、思うことをうまく伝えられない、怒りが爆発してしまうなどの「しんどさ」を抱えたお子さんに、楽しみながら学んでもらう体験型のワークショップ。今回は、特に相手を不快にさせない上手な「頼み方」、「断り方」を学ぶ一方、相手からの要望や拒否に自分の気持ちをどう対応させるかを学びました。

■-■ 居場所づくり（自主活動）支援 ■-■-■-■-■-■

外出や芸術・趣味的な活動に取り組む利用者が活動に対し「自ら、何をするか考え、見つけ、広げる」こと、そして、見つけた活動の「具体的な活動内容を選ぶ、準備する、実行する、達成感を味わう」ことを、ぱれっとはフレキシブルな形・方法で支援をしています。

■実施回数：256回（年間参加総数 1424名）～以下に、おもな自主活動を抜粋紹介～

（1）外出グループぴっぴ

小学4年生以上の障がい児が「友人と」外出する自主活動。ぱれっとでは、その活動に必要なサポートを「子どもの自主性を重視」「やれることは自分たちで」をモットーに提供しています。活動の中身は主にミーティング。行き先や待ち合わせ場所、交通ルート、予算などを自分たちで決定します。また、外出先での体験を振り返ったり、時には近況報告などしながら和気あいあいと楽しく活動しています。

ぴっぴ2 軽度知的障がいの中高生男子のグループ：活動回数 3回（年間延べ参加数 19名）

ぴっぴ7 軽度知的障がいの中高生女子のグループ：活動回数 1回（年間延べ参加数 3名）

== 担当者より ==

3年目に入り、「自分たちでミーティングをする」という活動が定着してきました。男子だけのグループ“ぴっぴ2”と、女子だけのグループ“ぴっぴ7”は、それぞれのカラー、グループの魅力が出てきました。

男子のグループは、それぞれ趣味が違ってミーティングの中で、自分のことをアピールできる場面が増えてきました。ある日のミーティングで、Tくんが「なんばへ行きたい」と提案してくれました。スタッフが理由をたずねると、「自分の好きな戦隊もののフィギアショップを、メンバーに紹介したいから」とのこと。続いてDくんも、「それなら自分の好きな鉄道の本を探しに本屋さんにも付き合っほしい」となり、場所調べやルート調べ、運賃調べなど、自主的にどんどん話し合いが進みました。

女子のグループは、コンビニランチをしながらラフなミーティングスタイル。前回の外出でのエピソードでは、笑いが絶えません。行き先の決め方も自分たち流。発散した意見に順位を付け、点数化してランキングを決めます。中身はいかにも女子中高生らしい“町プラ”や“スイーツパラダイスで食べ放題”“岩盤浴”など。興味のある場所は、インターネットで細かく調べたりと、やれることは自分たちで意欲的にやってみようになりました。

これまで重ねてきたミーティングを振り返ると、メンバーの成長には目を見張るものがあります。「自主性を重視して」をモットーにサポートをしていく中で、みんな素敵な大人にどんどん近づいていることを実感しました。

（2）その他の自主活動支援

●福山豊明さん ～ 豊明の世界

福山豊明さんの自主活動。趣味のさをり織りの展示会を4日間に渡って開催しました。

活動回数：1回 実施日：12月2日～12月6日 参加者83名

== 活動のようす ==



今回で3回目となりました。今回もたくさんの方にお越しいただき、交流室からは毎日のように楽しい笑い声が聞こえてきました。福山さん親子のお人柄と、さをり織りの作品の素晴らしさがお客様を引き寄せるんですね。

今回は最終日に、ソプラノ歌手の福山 順子さんを迎え「ソプラノコンサート」が開催されました。とても美しい声が交流室に響き渡り観客のみなさんは、吸い込まれるように聴いておられました。

ラスト2曲は、会場のみなさんで合唱。とても楽しいひと時は、あっという間に終了となりました。また、来年の開催に向けてこれから作品をがんばって作っていかれるそうです♪

豊明さんは、みなさんにとっても優しく話をしてくださるので、とても優しい空気が流れていました。



●北原徳美さん ～ なーちゃんのゆめ

北原徳美さんの自主活動。趣味のビーズアクセサリーの初の展示会を、5日間に渡って開催されました。

活動回数：1回 実地日：10月28日～11月1日 参加者77名

==活動のようす ==

土日などお仕事のお休みの時間を利用して、趣味でビーズ制作をされコツコツと作られた作品は、それぞれに個性豊かで素敵な作品ばかりでした。

ビーズ以外にも、徳美さんの趣味である「エジプト絵画」「歌を元に作った小説」「裁縫で賞をとった巾着」なども展示されました。

毎日13時ごろから、誰でもできる簡単なビーズ作りの講習会があり、なるみさんが丁寧に教える姿が印象的でした。29日(水)30日(木)31日(金)には、12時よりなるみさんの働いていらっしゃる「アンビション」

のパンの出張販売もあり、毎日売り切れとなる大盛況ぶりでした。

上記以外にも、個人で、ボランティア等で自主的に活動された利用者が多数ありました。



■-■ 生きがい・仲間づくり支援 ■-■-■-■-■-■

●情報提供

障がい児やその家族の暮らしに役立つ情報を、メール(パソコンや携帯)などを利用して提供しています。具体的には、以下の3つの方法で行っています。

(1) メールニュース『ふぁにい』

月曜～金曜までの毎日、携帯やパソコンへのメールニュースを配信。生活に密着した情報をタイムリーに届けることができる「欲しい情報が欲しい時に手に入る」ニュースです。

■平成26年度総配信数： 354 件 (期間H26年4月～H27年3月 月平均配信数 29件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配信 合計本数	33	28	32	35	24	31	33	33	26	32	25	22	354
福祉行政制度	4	3	1	2	2	3		2		2	2	3	24
民間の社会資源	2	3	2	4	2	2	1	1	3	4	3	1	28
お得情報/障害割引情報	1												1
余暇 お出かけ情報	3		1	2			1			1	1		9
余暇 エンタメ情報								4	2	1	1		8
余暇 文化活動	1		2	6	1	1	2	2		3	1		19
余暇 イベント	4		4	5	3	3	7	4	1	1	1	1	34
セミナー/講演会/学習会	7	11	7	5	4	9	10	8	8	11	9	6	95
書籍/番組/モノ等の紹介	4	3	3	4	5	3	5	5	6	4	4	8	54
ぴーすからのお知らせ	7	8	12	7	7	10	7	7	6	5	3	3	82

■記事内容（抜粋）

- ★福祉行政制度…障害者総合支援法、一部が改正・堺市 教育に関する相談、悩みや心配事の相談機関
- ★民間の社会資源…災害伝言ダイヤル
- ★お得情報/障害割引情報…青い鳥郵便はがきの無償配布のおしらせ・JR 鉄道運賃
- ★余暇（おでかけ・エンタメ・文化活動・イベント情報）…トイトイパーク・発達障がい者くらし市
- ★セミナー/講習会/学習会…障がい児者性教育セミナー・自閉症スペクトラム障がい講座
- ★書籍/番組/モノ等の紹介…ハートネット TV
- ★ぴーすからのお知らせ…出前あい・ふぁいるセミナー・ぽっしゅ・ぷらむ・小さなセミナーなど企画もの

== 担当者より ==

今年度も関係機関や団体、利用会員様からたくさんの情報をいただき、幅広い情報を配信することができました。みなさんの「知っている」「伝えたい」などの想いがふぁいにニュースになった一年でした。今後もいろんなニーズにお応えできるように、バラエティに富んだ内容で配信をしていきたいと思ひます。

(2) ブログ <http://sakai-comcom.net/p-s/>

ぴーすのホームページでブログを更新。

ぱれっとの活動内容を含め、ぴーす事業・活動の様子をタイムリーに配信しました。

■年間総記事数 244 本

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本数	17	21	21	24	12	32	32	17	24	16	12	16

== 担当者より ==

平成 26 年度は、「放課後等デイサービスぱんだ・ぼんた」や堺市放課後等補助事業である「余暇支援 ぷらむの家」から、子どもたちの活動の様子がたくさん投稿され、保護者の皆様から好評でした。

また、ブログが仲間づくりの情報提供の一翼を担っている好事例として、小さなセミナーのお知らせ投稿から、申し込みにつながったケースが多数あり、セミナーを通じて知り合いになるなどで、障害児保護者のエンパワメント支援に貢献しました。

(3) ぴーすのホームページ <http://p-s-sakai.net/>

ぴーすへ電話くださった利用者とその経緯をお訪ねすると、「ネット検索で HP を見つけ、電話しました。」との答えを頂くことがたびたびありました。ブログ同様、最初の情報提供の場として、重要な媒体です。

8 月より、NPO 法人 SEIN の協力を得て、リニューアルに着手。タブレットやスマートフォンに対応したテンプレート・デザインに変更することや情報の整理などの作業をコツコツと進め、3 月末日にはオープン直前の状態まで達成することが出来ました。（来年度 4 月 1 日にオープン予定）

(4) 図書/資料（閲覧貸出）情報コーナー

障害に関する書籍を誰でも自由に閲覧、借りることができるコーナーです。発達障がいや知的障がいについて学ぶ書籍を中心に、専門的なものからマンガまで各種取り揃えています。

他にも、関係団体の会報誌や雑誌、行政などで作成された障害に関する啓発物などもご自由にご覧いただけます。

平成 26 年度に人気だったのは：「自閉症のすべてがわかる本」でした。



(5) 展示・啓発掲示板コーナー

シーズンごとの障害に関するテーマを、掲示板にて啓発しているコーナーです。

ぱれっと待合ホールにあるので、来所していただいたついでにご覧いただき、お持ち帰り用の資料も用意しております。おもちゃ図書館ぽっぽや研修、セミナーにお越しくださったたくさんの方にご利用いただきました。

【平成 26 年度の報告】

月	内 容
4月・5月	「発達障害啓発」 政府広報オンラインよりお役立ちHP「発達障害ってなんだろう？」をご案内しました。
6月・7月・8月	「夏のおでかけ情報」 ぱれっと利用者さんの情報や、先輩母の体験話も紹介しました。
9月・10月	「秋です！読書のオススメ」 「自閉症の僕が跳びはねる理由」の著者、東田直樹さんを紹介しました。
11月・12月	「障がい児者の e-AT 活用事例」 iPad など、教育現場でも徐々に活用されている事例を紹介しました。
1月・2月・3月	「発達障がい児者の防災」 11月に開催した「子ども防災ワークショップ」の様相を紹介しました。

＝ 担当者より ＝

いつでもどこでも何でもネットで調べられるご時勢の中、どのようにしたらぱれっと啓発掲示板を見ていただけるのか、試行錯誤でした。

平成 26 年度は、ぱれっとの利用者さんの口コミや意見も掲示させていただいて、より身近に感じられるようになったと思います。ぱれっとに来所された方々が、ぱっと目につくような掲示板になるように、ますます工夫していこうと思います。

■-■ 地域関係機関との連携 ■-■-■-■-■-■

ぱれっと利用者以外の市民・地域・関係機関との連携を目的に、保護者勉強会等の企画協力、外部団体主催の企画モノへの講師派遣、福祉施策等情報収集のための外部団体会議への参加や各種団体との協働などを実施しました。

(1) 企画協力～バスツアー

●作業所見学と障がい者家族の情報交換会～

2015年2月26日、堺市手をつなぐ育成会主催イベントに協力しました。知的障害児の保護者対象に、子どもの将来に関わる社会資源の見学を通じて、保護者同士の情報交換を持つことを目的に開催。12名の方が参加されました。見学した作業所は、和泉市にある「社会福祉法人いずみさつき会」の「やよい園」「たんぽぽ園」で、TEACCH、PECS、SSTを取り入れた支援が行われており、たいへん刺激を受けました。

ランチ会は、ららぽーとのレストランで楽しくおいしくバイキング、参加者さん同士交流を深められました。



●講師／発表者を派遣した講演会・会議等

▼講師派遣（講演会・セミナーなど）

5月10日	寝屋川市障害児を守る親の会主催「避難所で困らないために・・・～障害児者の防災について～」
5月14日	堺東高等学校 福祉科科目 社会福祉基礎の授業 社会人講師 「障害のある子どもたちと向き合うこと」
6月5日	もず園保護者会主催 コンサート(演目手配のサポート)
6月19日	社会福祉法人自立支援協議会職員研修 「支援とくらしのいい関係～息子の子育て経験が導いてくれたもの～」
6月24日	堺市難病患者支援センター主催 「つながろう！みんなの子育て情報交換会～発達・就学・進路・思春期・周囲の理解など～」
6月27日	太子町手をつなぐ育成会主催「障がい児者の防災～いざという時 わが子を守るため～」
7月6日	レインボーシード主催 ほほえみフェスタ「障がい児のための防災について」
7月16日	加東市手をつなぐ育成会主催「防災ワークショップ」
7月29日	徳島県高等学校教育研究会特別支援教育学会主催 「障がい児とその家族の防災ニーズ～学校が 先生ができること～」
8月17日	NPO 法人ゆりかごネットワーク主催「ダウン症の子どもの特性と支援」
8月24日	第53回近畿知的障がい者福祉大会 第55回 大阪知的障がい者福祉大会
8月27日	堺市教育委員会主催 特別支援教育推進リーダー育成研修 「保護者支援～障がい児の母について～」
9月8・9・11・12日	親と子の療育支援センターおおぞら主催 めだか親子教室 保護者学習会「先輩保護者による子育ての体験談から」
9月17日	関西医療大学 保健看護学部看護学科 講義「障がいを支援する～人を支える」
9月19日	社会福祉法人枚方市社会福祉協議会主催「知的障害のある人への支援」
10月7日	堺市子ども家庭課主催 「障がいのある子どもと家族の視点から考える～障害児相談支援の視点から～」
10月12日	大阪狭山市公民館主催 「自閉症児の子育てから学ぼう～子どもも自分自身も大切にできるいい塩梅な関わり～」
10月17日	大阪市立東住吉特別支援学校主催「障害のある子どもの具体的支援の実際～アナログから最新ICT(iPadなど)活用事例まで支援グッズの体験学習会～」
10月25日	福祉用具の展示・説明会 第40回 すみよしまつり
11月3日	レインボーシード主催 第3回ほほえみフェスタ 福祉用具の展示・・・説明会
11月7日	えのきはいむ保護者会主催コンサート(演目手配のサポート)
11月9日	大阪狭山市公民館主催「誰にでもやさしい防災の知恵～障がい児(者)の防災の知恵から誰にでもやさしい防災の知恵、備えを学びましょう～」
11月15日	西脇市手をつなぐ育成会主催 「障害者のための防災を考える～災害から障害者を守るには～」
11月30日	えのきはいむ主催 保護者学習会「今だから思えること～あの時の思い・悩みを振り返りながら～」
12月2日	笑顔が増える♪支援グッズのある暮らし～ICFと支援グッズについて～」
12月13日	社会福祉法人コスモス コスモスヘルパーステーション りーふ主催「障がい児支援」
12月17日	堺東高等学校 社会福祉援助技術 社会人講師「障がいのある子どもと向き合うこと」
1月16日	つぼみ園保護者会主催保護者会主催コンサート(演目の手配のサポート)
1月17日	多可町社会福祉協議会主催「阪神・淡路大震災から20年 防災を考える！」
1月17日	社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会主催

	「笑顔が増える♪支援グッズのある暮らし～ICFと支援グッズについて～」
2月15日	発達障がい児者 暮らし市 2015
2月28日	家族 SST 交流会主催「災害にそなえて～助けられ上手になるために～」
3月5日9日	大阪市社会福祉協議会主催「個別支援計画作成のポイント」
3月10日	堺市子ども家庭課主催「あい・ふぁいる活用セミナー～つながろう、つなげよう～」
3月11日	大阪市男女共同参画センター南部館主催 「障がい児と家族のための防災セミナー～自分の子どもを守るためにできること」

▼協働・視察・その他

4月2日～8日	堺市主催「発達障害啓発週間パネル展」展示協力
5月9日	堺脳損傷協会 見学対応
5月14日	NPO 法人ゆりかごネットワーク 見学対応
6月28日	パシフィックサプライ(株) 新開発 感覚遊具のモニタリング協力
7月19日	堺支援学校 PTA 福祉盆踊り大会 出店協力
7月21日～8月31日	大阪府立大学主催 教育福祉フィールドワーク 学生受け入れ
8月9日	防災教育ワークショップ 発達障がい・自閉症(軽度)向けの防災教育イベント
8月17日	地域活動支援センター遊夢音 手をつなごう!抱きしめよう!ヒブッキー!ニコニコ大使ヒブキプロジェクト来日公演
8月20日	大阪保健医療大学 ゼミ生研究協力 障害児親の会活動が親に与える生活心理面への影響 ～自閉症児・者を家族に持つ親に焦点をあてて～
8月21日	堺市特別支援教育に携わる教員の研修受け入れ 特別支援教育教員ぴーす見学対応
1月10日	大阪府立大学 調査協力 『自閉症児を育てるシングルマザーへの府立大インタビュー調査へのご協力』
1月13日～ 2月15日	大阪大学連合小児発達学研究 研究協力 『障子のブレインバンク設立に関する意識調査』
2月19日	支援者向け研修協力 学齢期の支援～支援者支援プログラム～
2月25日	防災手帳 図書掲載 『きいてみよう 障がいってなに?』 2015年度 学校図書館セット企画 保健/道徳 の書籍に掲載協力

▼参加した会議等

概ね月1回～ 2か月1回	大阪手をつなぐ育成会 支部代表者連絡会/活動推進部会/役員会/理事会
	大阪手をつなぐ育成会主催 大阪府教育委員会懇談会
	堺市手をつなぐ育成会 役員会/成人部会
	堺市自立支援協議会主催 障害当事者部会 交流会
	堺市障害児教育専門部会
	堺市発達障害者支援専門部会
	第3次堺市地域福祉計画 及び 第5次堺市社会福祉協議会地域福祉総合推進計画 懇話会/策定委員会
	堺市障害者施策推進協議会主催 障害者長期計画策定「地域生活」専門部会
さかい障がい児放課後連絡会 全体会議/行政委員会/役員会/代表者会議	
年に2回	堺市社会福祉事業団 評議員会

▼地域活動支援センター Bタイプ 情報交換会 および パネル展

5月27日	第9回 地域活動支援センター Bタイプ 情報交換会 @しのめハウス
7月22日	第10回 地域活動支援センター Bタイプ 情報交換会 @ぱれっと
9月24日	第11回 地域活動支援センター Bタイプ 情報交換会 @くらすメイト
11月12日	第12回 地域活動支援センター Bタイプ 情報交換会 @えると
12月3日～9日	地域活動支援センター紹介 パネル展示会 @堺市役所本館
1月21日	第13回 地域活動支援センター Bタイプ 情報交換会 @堺市役所
3月18日	第14回 地域活動支援センター Bタイプ 情報交換会 @あしすとナイト

▼メディア取材

6月6日	共同通信主催 メディア取材 テーマ：ぴーすの活動紹介
3月6日	NHK バリバラ 4月5日放送分 取材協力

▼訓練と点検

12月16日	点検と訓練 ①防災の設備等の点検 ②危機管理及び防災の訓練
3月11日	点検と訓練 ①防災の設備等の点検 ②危機管理及び防災の訓練

□■ 障がい児保護者支援 ぴあリーダー養成事業（記：辻） □■□■□■□■□■□■□■□■

堺版新しい公共創出事業※へ、〈ぴーす〉と〈堺市 子ども青少年局 子ども青少年育成部 子ども家庭課〉との協働で企画提案し、採択された事業です。

「障がい児保護者のニーズの把握」「保護者個々の養育力アップ」を行うため、『よろず相談に対応できるぴあリーダー』を養成することを目的とし、平成25年10月から1年6カ月かけて行った事業です。

※NPO法人等市民活動団体の新しい発想や専門性を活かし、市と役割を分担しながら相乗効果を発揮して、地域的・社会的課題を解決する「市と民間の協働事業」

事業主体：NPO法人ぴーす 子ども家庭課

事業期間：平成25年10月1日～平成27年3月31日

事業内容：

1. ぴあリーダーの養成

保護者が保護者の相談にのる「ぴあ相談」の担い手を育成するため、カウンセリングやファシリテーション、障害児福祉等の専門知識を学び、相談技術を習得する。

2. あい・ふあいる活用セミナーの実施

保護者と支援機関の共通のツールとして活用できるよう堺市が作成した「あい・ふあいる」の使い方の研修を行う。また、セミナーをぴあリーダーの実地研修の場とする。

3. リーダー登録システム「ぴあぴあ」の構築

研修を修了した保護者は、新たに構築する「ぴあリーダー登録システム」に登録、ボランティアとして活動を継続。

■-■ 事業報告 ■-■-■

●広報

1：ぴあリーダー養成講習受講者募集

- ・広報さかい10月号で告知。
- ・堺市内小学校・中学校の支援学級、支援学校在籍児童・生徒保護者にチラシ配布

➡結果、65名の方が申し込みをされました。

※今回の報告は、平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日まで内容です。

2：出前あい・ふあいる活用セミナー参加者募集

- ・広報さかい 1 月号で告知。
- ・堺市内小学校・中学校の支援学級、支援学校在籍児童・生徒保護者、幼稚園・保育所・児童発達支援センターの園児の保護者にチラシを配布
- ➡結果、23 グループが申し込みをされました。

●ぴあリーダー講義型研修 延べ受講数 328 名

テーマ	実施日	参加人数
必須研修 6 『暮らしのリハビリについて』	5/16・30	56
必須研修 7 『障がい児福祉』	6/12	37
必須研修 8 『高校～成人の暮らし方について』	6/20	41
必須研修 9 『障がい児支援の基本（発達～自立）』	9/26・10/3	52
必須研修 10 『支援に役立つカウンセリング』	10/20	50
セミナー4・5 『家族支援ワークショップ』	11/19・1/16	40
必須研修 11 『障がい児・者の権利擁護』	2/10	52

●ぴあリーダー実地型研修 延べ参加に人数 127 名 延べぴあリーダー参加人数 88 名

テーマ	実施日	参加人数	ぴあリーダー参加人数
あい・ふあいる活用セミナー	4/30	3	0
出前あい・ふあいる活用セミナー 上神谷保育所 保護者	7/7	4	3
出前あい・ふあいる活用セミナー 第1・2 つぼみ園保護者	7/15	13	12
出前あい・ふあいる活用セミナー 保護者有志	8/7	5	3
出前あい・ふあいる活用セミナー 第2 つぼみ園保護者	9/5	7	4
出前あい・ふあいる活用セミナー 第1 つぼみ園保護者	9/19	4	5
出前あい・ふあいる活用セミナー 保護者有志	9/24	6	2
出前あい・ふあいる活用セミナー 上神谷支援学校（先生対象）	9/27	9	2
出前あい・ふあいる活用セミナー 第1 もず園保護者	10/14	5	3
出前あい・ふあいる活用セミナー 第2 もず園保護者	10/27	12	12
出前あい・ふあいる活用セミナー 第1 もず園保護者	10/30	2	3
出前あい・ふあいる活用セミナー あたらしい風の会	12/4	11	3
出前あい・ふあいる活用セミナー	1/22	0	0
出前あい・ふあいる活用セミナー	1/27	2	1
出前あい・ふあいる活用セミナー	2/4	0	0
出前あい・ふあいる活用セミナー 児童デイサービス りーふ	2/5	5	3
出前あい・ふあいる活用セミナー	2/20	2	職員で対応
出前あい・ふあいる活用セミナー 児童デイサービス りーふ	2/24	7	3
出前あい・ふあいる活用セミナー 児童デイサービス りーふ	2/25	4	4
出前あい・ふあいる活用セミナー 百舌鳥支援小4 保護者	2/26	7	4
出前あい・ふあいる活用セミナー	3/6	3	2
出前あい・ふあいる活用セミナー 鳳南小・上神谷支援保護者	3/10	6	1
出前あい・ふあいる活用セミナー	3/17	2	職員で対応
出前あい・ふあいる活用セミナー 美原北小保護者	3/27	8	職員で対応

【平成 26 年度活動報告】

●指定相談支援 年間の相談件数 2431 件 年間の新規契約数 12 名 合計契約実人数 157 名
「障害児相談」計画案作成件数 178 件 モニタリング件数 470 件
「計画相談」計画案作成件数 20 件 モニタリング件数 59 件

～計画作成、モニタリング以外の相談傾向～

学校に関する事で、家庭と学校での連携がとりづらい、又対応方法の共通理解が得られない、というような相談が最も多くありました。サービス担当者会議の中で学校と連携を図る、又は参考としてこれまでの事例を紹介する、等の対応を行いました。

次に多かったのは、子どもの成長とともに、家庭での対応に悩んでいるという相談。成長は嬉しくもあり戸惑う事もあり、保護者の気持ちに寄り添いつつ、家庭だけで悩まず、利用できる社会資源を紹介したり、地域生活支援センターに繋ぎ、家庭でできる対応と一緒に考えるという対応を行いました。

●療育支援事業

年間の相談件数 937 件 年間の実人数 103 名

～相談傾向～

最も多かったのは、1～2歳の健診等で要観察となっているお子さんの相談対応でした。障害受容や特性の理解、療育へのつなげる支援などの中で「子育てそのもの」に悩む母達に寄り添い支えるという対応が多かったです。

次に多かったのが、学齢期(特に小学校高学年以降)の不登校や家庭内での粗暴な行動などに関する相談でした。必要な関係機関につなぎながら、母の精神的安定をはかり、親子の良い距離を作る支援を行いました。

年度終わりに数が増えたのが『施設支援』でした。障害特性の理解をヘルプしたり、事業所や学校だけでは対応しづらい問題をともに考え、悩み、必要な所へつなぐといった支援を実施しました。

□■ ぴーすの児童デイ（放課後等デイサービス・児童発達支援事業） □■□■□■□■□■□■

ぴーすの児童デイ（通所サービス）は、法人設立以前の平成 16 年度に〈6名の重度知的障がい児の母親たち〉が開始した放課後活動が元になっています。その活動は、堺市ファミリーサポートサービス事業から堺市障害児放課後活動等支援事業を経て、平成 23 年度に児童デイサービスの 2 事業所を開始。平成 24 年度の法律改正より『児童発達支援と放課後等デイサービス』に変更し、現在にいたっています。

母親たちの自主活動から 10 年がたち、現在の放課後活動に参加する子どもは 8 名から●名に増えました。また土曜日も、母親たちで運営していた音楽活動などを通所サービスに取り入れ「趣味・余暇のスキルアップを目指す活動」として、現在では利用実数が●名になっています。

この広がり、ぴーす内だけでなく堺市内全体に見られ、10 年前は 1 箇所しかなかった児童デイが、現在 80 以上の事業所ができ、多くの子ども達が利用するようになりました。同時に、平成 24 年度より放課後デイ事業所のネットワーク『さかい障害児放課後連絡会』が設立され、現在堺市すべての事業所が入会していますが、ぴーすはその初年度より事務局を担当させてもらい、この 10 年の流れの中で障がい児支援活動に積極的に取り組んできた立場として、堺市すべての障がい児のための役割が担えるよう努力している最中です。

平成 26 年度のぼんだでは、平日の午前から児童発達支援の幼児が、放課後から支援学校小学部・中学部の児童・生徒、泉北高等支援学校の高校生が利用しました。一部、高校生はいましたが、全体的には「小さな子」が集まったの活動でした。特に平日の児童発達支援が年度当初から希望者が続々と現れ、冬には定員がいっぱいになりました。

ぼんだの平日は、百舌鳥支援学校の中学部、堺支援学校の高校生、地域小学校・中学校の児童・生徒という顔ぶりで「青年に向けて」や「集団」を意識した活動をしました。

土曜日も、年齢や目的でグループ分けて活動。詳しい活動の様子は、以下の通りです。

●活動の目的

単なる「預かり」ではなく、一人一人の障がい特性や持っている力（苦手なことできないことも含め）をしっかりと捉え、その力を「より伸ばす支援」、本人がしたいことを「できる工夫」などを行うことで、将来の『その子らしい自立』を目標に活動しています。加えて、「今、楽しく暮らす」ことをベースに、年齢らしい「チャレンジ」や「役目



を担うこと」や「友達付き合い」ができる環境を整えています。

例えば・・・友だちとコミュニケーションがうまく出来ない子には、その子に応じたやりとりの方法や環境を整え、「おしゃべりしたい意欲」を育てる支援。家庭ではなかなかできない経験として、小さな集団の中で、「順番を守るなどルールを覚え、楽しく遊ぶ」場面作り。福祉用具や支援グッズを利用しながら「自分でできる」練習などなど一人ひとりの子どもの「こうなりたい」という心の声に耳を傾けて個別支援計画を作成、日々それを基に家庭と連携しながら支援を実施しています。



●活動の種類

A：放課後や長期休暇での活動 生活力アップをめざし、以下の力を育てています。

1. 家で過ごす力

自分のことは「自分でする」力、家の中で「ひとりで」または「家族と楽しむ」力、家族に「役立つ」力

2. 地域に交わる力

街中で「移動する」「買い物する」「外食する」などにおいてのマナーやルール、エチケットの獲得

3. 友人と楽しむ力

同世代の友人、異世代の先輩・後輩の中で、「協力する」「認め合う」力を

B：土曜日の活動 将来の趣味、余暇などにつながる力を育てています。

1. 音楽 2. アート 3. 料理 4. 運動

●ぴーすの児童デイぱんだ 活動紹介 (記：板野) -----

●活動概要

【場所】北区百舌鳥梅町

【定員】10名

【人員】管理者兼責任者1名 子ども2名：指導員1名以上の配置

【日時】基本 10：00（もしくは下校）～17：00（高校生 17：30まで）



== 活動の様子 ==

平日の放課後活動では、昨年からの行っている集団活動の『府大散策（運動）』は、みんな力がアップしました。

みんなで行きたいコース所を決めたり、歩く順番やルールが守るなどができるようになり、高学年は低学年のお友達を待ってくれたりする姿も見られるようになりました。長期休暇では、府大散策に「学食での昼食」をプラスしてを行いました。このような経験を1年間通して行うことで、メニューから食べられるものを自分で見付けて選べるようになったり、1人で注文できたりと、成長した姿が見られました。

木・金曜日は、いろいろな素材に触れる目的の制作活動を行いました。

季節に合わせたテーマで、いろいろな素材を使いながら、それぞれに力を出して、作品づくりを行いました。今年は『自分たちの街』という作品も作ることが出来ました。

お手伝い活動では、『掃除』をテーマに、それぞれができること見極めて、担当を決め、毎週の活動の一つとして行っていくうちに、自ら片づけが出来るようになりました。「自ら動く」子どもたちの姿は、これからも続いていくと思われます。

平日の児童発達支援の利用は、昨年度まで数が少なかったのですが、今年度は当法人での障害児等療育支援事業の開始したこともあり、年度当初から希望者が現れ、月を追うごとにその数がどんどん増えました。そのほとんどが「保健センターの健診等で障害や発達の遅れが発見されたが、すぐに療育につながらない」というケースで、翌年の安定した進路につながるまでの間、療育を提供することとなりました。

一方、土曜は幼児～小2程度の小さなお子さん対象で『趣味・余暇スキルのアップのためのプログラム』を実施しました。個々の興味・関心、できることの幅などが広げられるよう「内容に変化をつける」工夫をしました。



今後もそれを進めていき、無理にではなく「自分から動ける」よう支援していきながら、個々に余暇の楽しみの幅を広げたいと思います。

== 平日のぱんだスタッフの感想 ==

A スタッフ

今年度は、支援学校の小学部・中学部の子を支援しました。子ども達は、前年と入れ替わりがなかった為、プログラム内容はそのまま継続して行いました。

水曜日は、大阪府立大学へのお散歩・木曜日はイズミヤへのペットボトル運びを行っていました。始めた当初は、出発までの準備（切り替え）が上手くできなかつたり、買い物の順番が待てなかつたり、ペースを合わせることが難しかったりと、バタバタしていましたが、現在は、時計が分かるお子さんは、「府大散歩の時間だよー！」と知らせてくれたり、出発することを伝えると、それぞれ準備を整えて玄関に集合できるようになりました。

また、火・木曜日に取り組んでいる製作活動では、のりを使用しお手本を見ながらの「貼り絵」を行いました。回数を重ねるごとに、お手本を意識しながら、両手を上手く使って完成させることができたり、スタッフに褒められることで、意欲的に取り組めるようになってきています。



日常の活動を安定したものにすることで、子ども達はもちろんですが、スタッフ（支援する側）も心にゆとりを持って子ども達に関わることができ、今までは気付かなかった姿や、成長振りを感じることもでき、笑顔で明るい声でいっぱいぱんだ活動になったと思います。



B スタッフ

高校生2名の活動を支援しました。各自ゆっくり好きな遊びをして過ごし、課題・買い物・お手伝いにも取り組んでいきました。

長期休暇では、小中学生と合同での活動。普段と違いにぎやかな場所での活動でも、しっかりスケジュールを組むことで落ち着いて過ごすことができ、いつもと違う遊びを楽しんだり、みんなで外食・バスに乗って街散策などのプログラムにも参加しました。その中で得たものは多いと思います。

1名はこの春に高校生活卒業。ぱんだでの成長を活かしてもらって、次に進めてもらえたらと思います。

C スタッフ

平日の児童発達の担当をしました。お子さん達は、利用開始はまちまちですが、目標は「次の3月でぱんだを卒業し、次のステージである児童発達支援センターや保育園、幼稚園に行く」ことです。今年も3月で11名の子もさんが卒業し、次のステージに進みました。

最後の利用日は、お母さんもぱんだの職員も「今日で最後」と特別な気持ちで臨み、おむつ交換したり、お片付けのカードを提示しながら、「こんなコミュニケーションも今日で最後なんやなあ」と感極まる思いでした。

が、当の子どもたちは全くそんな気持ちはなく、丁寧に最後の挨拶をしてくださるお母さんの気持ちをよそに「ボク、今日も頑張ったで。はよ帰ろうや」とお母さんの手を強く引っ張って帰って行きました。そんな子どもたちを見て、うるうると涙が出そうになっていた職員も涙が吹っ飛んで、笑いに変わっていました。

どうぞ、卒業していった子どもたちが、いい支援者に恵まれてさらに成長していけますように、地域につながっていく力をつけていけますように、お父さん・お母さんを助ける力をつけていけますように、職員一同、強く強く願っています。

●ぴーすの児童デイ ぱんだ 活動紹介（記：上善）-----

●活動概要

【場所】北區百舌鳥本町

【定員】10名

【人員】管理者兼責任者1名 子ども2～3名：指導員1名以上の配置

【日時】10：00（もしくは下校）～17：00（高校生 17：30、地域小中学校 18：00）



== 活動の様子 ==

平日の放課後では、月・水・金曜日は主に支援学校の利用者を中心に、自立生活を目標としたお仕事・おやつクッキング・アートに取り組みました。

それぞれのプログラムの中でも、個別の力を伸ばすことや、仲間と協力し、他者意識の向上を図ることなどに取り組みました。夏休みには皆で協力し、作品を作り、作品展へ応募もしました。受賞は叶いませんでしたが、その後のアートへの足がかりとなっています。

お仕事も、洗濯機を回す～取りこんでたたみ、片付けるまでの一連の流れを身につけたり、皿を洗う→拭いて片付ける、という役割分担をしてお友達と協力して行うなどに取り組んできました。

火・木曜日は、集団遊びを通じ、『ルール』のある遊びを行い、『仲間を思いやる』『一緒に遊ぶ』事に取り組みました。集団遊びになかなか加われなかった子ども、一緒にキャッチボールやサッカーに加わることができるようになったり、たとえ上手にできなくても、励ます心も育っています。

長期休みでは、みんなで昼食クッキングに取り組んだり、緑地公園でのBBQや外食、ボーリング・カラオケ・近くの神社への初詣など、普段ではできない活動も行いました。慣れない活動への参加でも、それぞれスケジュールを用い、見通しを持って楽しめたようです。

一方、土曜日は、年度当初、午前に学齢期の昼食クッキング活動、午後に幼児～小2のアートやおやつクッキングを実施していましたが、ぱんだの活動とのバランスを鑑み、1月より学齢期だけの活動に切り替えをしました。

== 児童デイ・スタッフの感想 ==

Aスタッフ

月・水・金曜日を担当しました。月曜日は「家事スキル」のプログラムで、スケジュール時に何をやるか聞きとったり選んでもらいましたが、みんなしっかりと取り組んでくれ、中には家に帰ってやってくれた子もいて、保護者が嬉しそうに話してくれた事もあり、やってきてよかったと思いました。

水曜日は、おやつクッキングでホットケーキ・たこ焼き・フライドポテトのローテーションでやってきました。最初は少してこずっていたりした子ども、今では手慣れて作るスピードが早くなったり、ヘルプも本人が出さない限り見守りだけで一人で作れるようになりました。



夏休み等長期休みは、昼食クッキングもやり、餃子とチャーハンなどを作ったり、おやつクッキングはスイートポテトやクッキーなどいつも違うものを作りました。いつも以上にはりきる子どもいれば、普段なかなか参加しづらい子ども、やり始めるとしっかりと取り組んでくれたのが嬉しく思いました。

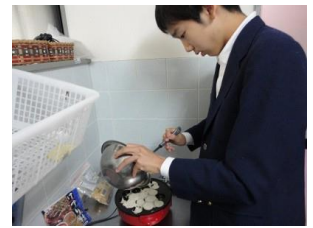
金曜日は、アートで季節に合わせた物を作っていました。夏休みには、作品展に応募する作品を作ったり、冬休みには寄付されたペット

ボトルのキャップで【キャップアート】に取り組んだり、みんなで協力して作る作品に挑戦！いろいろなチャレンジができたと思います。

Bスタッフ

私は、昨年度火・木曜日を担当し、地域の小中学校や、支援学校に通うお子さん達を担当し、プログラムは、集団活動をメインに行っていました。

年度の初めは、室内で過ごす事が多かったりもしましたが、徐々に外に出て行く機会も増え、少しずつ晴れた日に近くの公園に出かけ、みんなで一緒に遊ぶことが増えていきました。公園での遊びは、キャッチボールやサッカー等のボール遊びを中心に、遊具や体を動かして追いかっこ等の鬼ごっこなどいろいろしていました。



社会福祉法人 いずみさつき会 やよい園 たんぽぽ 見学	一般職員	ぴーす	2/26
問題行動～事例から考えてアセスメントをおさえておく～	一般職員	ぴーす	3/5
障がい福祉制度を学ぶ	一般職員	ぴーす	3/6
障がいを持つ子の支援について	現場職員	ぴーす	3/12

▼法人外研修

研 修 テ ー マ	主催者	日程
障がい特性の理解と支援	さかい放連会	4/24
問題行動への対応～なぜ起こる？どう防ぐ？～	さかい放連会	5/15
障害のある人へのコミュニケーション支援	おめめどう	5/10
放課後等デイサービスに求められていることは？	さかい方連会	5/30
TEACCHの理念	TEACCH研究会	5/31
スタッフ育成とコミュニケーションの向上 上司としてのスキルアップ	さかい放連会	7/10
事務を効率的に！改善するヒントをつかむ	NPO 法人 SEIN	7/22
中高生にソーシャルスキル・ライフスキルを教えるには	エルム大阪	8/11
なんとカンファレンス 3rd 支援機器としてのタブレット端末 合理的配慮ってなんだ！	なんとカンファレンス実行委員会	8/14
もっと楽しく健康に	日本ムーブメント教育・療法協会	8/16
教務の仕組みを改善し、次に活かす	NPO 法人 SEIN	8/28
職員育成・チームワークについて	さかい放連会	9/16
幼児期研修 ①	児発連絡会	9/24
指定障がい児支援事業者等集団指導	堺市	9/25
障がいのある子どもと家族の視点から考える～障害児相談支援の視点から～	堺市子ども家庭課	10/7
相談支援従事者初任者研修	大阪府社会福祉事業団	10/17
コミュニケーションについて	TEACCH研究会	11/16
支援ワークショップ①	児発連絡会	11/25
障がい者虐待防止・権利擁護研修～障がい福祉サービス事業所等コース	大阪府福祉部障害福祉室	12/5
ATACカンファレンス 2014 京都	e-AT 利用促進協会	12/6
PECS（ペクス）の基本	NPO 法人クララ	12/20
幼児期研修 ②	児発連絡会	1/29
発達障害と医療・教育～最近の動向から～	南河内LD研究会	2/8
軽度発達障がいの特性	さかい放連会	2/10
子どもも大人も楽しく学ぶソーシャルスキルトレーニング	えんばわめんと堺	2/15
障害児のアセスメントと支援計画	堺市子ども家庭課	2/19
支援ワークショップ②	児発連絡会	2/19

●ぴーす会議

▼平成26年度 理事会

5月13日（火）、6月6日（金）、7月8日（火）
9月10日（水）、3月25日（水）計5回 開催

▼平成26年度 総会

5月23日（金）10：30～12：00
出席者10名（内委任状出席者1名）



【制作】 特定非営利活動法人 ピーす

〒591-8032 堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

TEL 072-250-9060 FAX 072-250-9061

Mail p-office@p-s-sakai.net HP <http://p-s-sakai.net>